

評価問題例

(第4時に基づく評価問題例)

- 1 320円のケーキを買いました。
おつりのないように、お金をはらいました。
100円玉を何まいと、10円玉を何まい出したらいいでしょう。
ことばや数を使って書きましょう。

100をいくつと、10をいくつ合わせると320になるか考えさせる。

(第5時本時に基づく評価問題例)

- 2 980円のにぎりずしのパックを買ってくるように、たのまれました。
1000円を出しました。
おつりは、何円玉を何まいもらえばいいでしょう。
式とことばを使って書きましょう。

- ・おつりを確かめることも実生活で大切なこと。
- ・1000という数を100のまとまり、10のまとまりにさせる。
- ・980とあといくつで1000になるか考えさせる。

評価問題のポイント

実生活においてお金を使うことは、必要なことである。値段を見て、どの硬貨を使うといいか判断できる力を付けることは、とても大切なことである。

問題1について

努力を要する状況の児童には、位取り板を使ってどの位にどの数字が入るか確認させる。位を硬貨に置き換えると、どの位のお金が何枚必要なのか、数字が目に見えて理解できる。

問題2について

「100のまとまりが10個で1000になる」ことや、「10のまとまりが10個で100になる」ことなどを理解していることが大切になる。980を100と10のまとまりに考えると、900と80に分けることができる。900は100を9個、80は10が8個になる。1000は、900と100。100は10が10個。100は80と20なので、おつりの硬貨は10円玉2枚になる。これらのことが理解でき、説明できるようにさせる。

努力を要する状況の児童には、お金の模型を使って実際に活動する中で理解させる。